



学校図書館部会報 78

発行日：2025 年 3 月 24 日

発行者：日本図書館協会 学校図書館部会（部会長：甫仮久美子）

連絡先：gakutobukai@jla.or.jp



I N D E X

部会総会についてのお知らせ～ご出席または委任状提出にご協力をお願いします～	幹事会 … 1
「これでいいのか図書館 会計年度職員の継続雇用を求める院内集会」（2 月 19 日）報告	高橋恵美子 … 2
学校図書館職員に関する実態調査（個人向け）報告書 概要版	
日本図書館協会 非正規雇用職員に関する委員会 … 3	
令和 6 年度石川県図書館大会 参加報告	高橋恵美子 … 11
新たな描き手が伝えていく平和への思い	笠川昭治 … 12
次期役員候補者公募の結果報告／次期役員候補者追加公募のお知らせ	… 14
部会からのお知らせ	… 16

部会総会についてのお知らせ

～ご出席または委任状提出にご協力をお願いします～

幹事会

- 2025 年度部会総会は、6 月 7 日（土）午後 2 時から、日本図書館協会会館 2 階研修室で開催予定です。また、web 出席も可能とする予定です。
- 昨年同様、5 月 24 日頃、部会ホームページに出欠予定 & 委任状提出フォームを掲示する予定です。そちらから出欠の予定をご連絡下さい。欠席の場合は委任状提出フォームから委任状の提出をお願いいたします。
なお、いったん委任状をご提出頂いた方が出席できるようになった場合は、委任状の撤回ができますので、事前に部会メールアドレス宛にメール連絡頂くか、当日受付でお知らせ下さい。
- web 出席の方法や委任状提出方法は、図書館雑誌 5 月号に掲載又は同封される各部会総会の「お知らせ」でご案内いたしますので、そちらも必ずご覧下さいますようお願いいたします。

総会成立のために、ご出席（web 出席含む）または委任状提出へのご協力をお願いいたします。

- 総会へのご質問・ご意見・ご提案などがある方は、4 月 20 日までに、巻頭記載の部会連絡先宛に、文書（電子メール）でお送りください。
- 総会資料は事前に部会ホームページに掲載予定です。会場参加の方は、各自印刷してご持参下さい。

※当日午前中の学習会等の企画は、今年はありません。

「これでいいのか図書館 会計年度職員の継続雇用を求める院内集会」

(2月19日) 報告

高橋恵美子

2025年2月19日(水)14時より、衆議院第一議員会館大会議室で、標記の集会が開催された。昨年6月6日に開催された院内集会では、実行委員会の団体に日本図書館協会が名を連ねていたが、今回の集会では諸事情により、日本図書館協会は協力の立場になっている。

今回の院内集会では、事前に議員訪問を行ったこと、総務省・文部科学省あてに要望書を提出し、集会当日に総務省・文科省に発言を求めている。この集会についてはYouTube配信をされており、以下から見るができる。

<https://www.youtube.com/watch?v=Q1qzo1b4Ge4>

開会挨拶は、図書館問題研究会より巽照子氏が行った。

その後、「日本図書館協会(JLA)からの報告」として高橋が報告した。報告内容は、昨年12月に行った「公共図書館、学校図書館で働く会計年度任用職員の継続雇用についてお願い」の件と非正規雇用職員に関する委員会が行った自治体向け調査と個人向け調査にみる会計年度任用職員の件である。

「公共図書館、学校図書館で働く会計年度任用職員の継続雇用についてお願い」は、12月6日に自治体向けに文書を発出し、12月13日に文科省で記者会見を行った。(この文書は、協会のホームページ「お知らせ」欄に掲載されている。)

学校図書館職員調査の話題に入る前に、文科省の「令和5年度公立学校における学校司書の配置状況に関する調査」(2024.6.20発表 2024.9.10修正)で新たにわかったことを確認し、協会非正規雇用職員に関する委員会の調査の話をした。自治体向け調査に関しては、当日の持ち時間の関係でほとんど説明をしていない。個人向け調査については、雇い止め、給与・報酬の金額、超過勤務手当、賃金の満足度について、会計年度任用職員に関する調査結果を説明した。最後に会計年度任用職員から寄せられた声を紹介して終わった。「非正規制度をつくった人たちを一生恨む」「ボーナス支給されたら時給を下げられた」「底辺の悲しさは体験している人しかわからないと思う。20年近く働いているがよくなったことは一つもない」などの意見が、集会後の弁護士ドットコムニュース

(2025.2.20、https://www.bengo4.com/c_18/n_18472/)で紹介されていた。

(高橋の報告資料は、日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会のページに掲載されている)

当事者からの報告は、会場で練馬区立図書館専門員労働組合の方、オンラインで公共図書館司書、学校司書の2人の報告があった。小学校の報告者は、中学校1校、小学校3校の4校兼務とのこと。1校には週1日5時間、圧倒的に時間が足りず、時間外に自宅で行う仕事も多いと言う。

こうした報告の間に、会場に来られた議員の方からの挨拶がある。

事前に出した要望書の関係で、総務省、文科省から、要望事項について話をする時間もあった。

後半は、大阪信愛学院大学准教授の廣森直子氏より「司書が専門性を発揮できる労働環境～我慢するか、やめるかしか選択肢がない～」の講演があった。高い志と処遇の低さ、専門性を追求する上での様々な困難、特に複数校勤務の学校司書が短い勤務時間に苦しんでいる、などがあげられた。

最後の質疑応答の時間では大学の先生の司書資格の話が続き、これではいけないと感じて挙手した。高橋の発言は、かつて学校図書館の実践を追求し書籍等でその成果を発表、全国に広めてきた学校司書は、正規職員あるいは正規職員に近い位置づけの職員だった。現在、正規職員の学校司書の数が減り、非正規雇用職員に置き換わってきたことは、学校図書館にとって危機的な状況であるという趣旨の発言をした。

会場参加者は 70 名、オンラインの参加者が 50 名とのこと。事前に議員訪問をしたこともあり、国会議員あるいは秘書の参加も多かった。なお、この集会の YouTube 動画は、2 月 20 日時点で 400 のアクセスがあったとのことである。

学校図書館職員に関する実態調査（個人向け）報告書 概要版

2025.02 日本図書館協会 非正規雇用職員に関する委員会

※「学校図書館職員に関する実態調査（個人向け）報告書 概要版」についての説明

「学校図書館職員に関する実態調査（個人向け）」については、2024 年 12 月に「報告書」と「最後の設問に寄せられた声」の二つが、図書館協会のホームページで公表された。「最後の設問に寄せられた声」については、部会報 77 号に掲載した。部会報 77 号では、日付が空欄の状態での掲載だったが、内容は変わらない。日付は「2024.12」となった。

「報告書」は、全部で 29 ページあり、また集計表と文章部分で構成されているわかりにくさがあるため、非正規雇用職員に関する委員会では、概要版の作成にとりかかることになった。概要版は、2025 年 2 月 10 日に図書館協会のホームページに掲載された。以下は「学校図書館職員に関する実態調査（個人向け）報告書 概要版」である。なお最後の設問「5）学校図書館で働く中で思うこと（自由記述）」に関しては、簡略にした内容ではあるが、部会報 77 号と重複する内容であるため、本号では省略する。

（高橋記）

< 調査の概要 >

調査対象：正規職員を含む学校図書館職員

調査期間：2023 年 11 月下旬～2024 年 1 月（2024 年 1 月 31 日〆切）

調査方法：Web 調査 **回答数：**893 人

< 調査の結果 >

雇用形態別の単純集計

雇用形態別の単純集計は以下のとおりである。

○自治体・国立学校・私立学校による直接雇用 860（96.3%）

パートタイム会計年度任用職員 534（59.8%）、フルタイム会計年度任用職員 98（11.0%）、会計年度任用職員以外の非正規雇用職員 38（4.3%）、再任用・再雇用職員 12（1.3%）、正規職員 128（14.3%）、任期付職員 36（4.0%）、有償ボランティア 13（1.4%）、未記入 1（0.1%）

○外部委託・派遣等 33（3.7%）

外部委託 25（2.8%）、公共図書館が指定管理で学校図書館も対象になっている 4（0.4%）、派遣 4（0.4%）

(1) 属性

1) 性別

全体で 96.5%と女性が圧倒的に多い。すべての雇用形態で女性が多いが、男性が比較的多いのは「再任用・再雇用職員」16.7%「正規職員」14.1%で、一方少ないのは、「任期付職員」「有償ボランティア」「外部委託」の 0.0%、「パートタイム会計年度任用職員」の 0.9%である。

2) 年齢

全体では「50～59 歳」37.4%、「40～49 歳」31.4%と多く、以下「30～39 歳」13.9%、「60～69 歳」12.2%と続く。雇用形態別に見ると「50～59 歳」が一番多いが「有償ボランティア」「外部委託」では「40～49 歳」、「再任用・再雇用職員」では「60～69 歳」が一番多い。40 歳未満は全体で 18.6%だが、「フルタイム会計年度任用職員」は 33.7%、「正規職員」は 32.1%に及ぶ。

3) 資格の有無（複数回答可）

司書資格に関しては、全体として 82.5%。90%以上になっているのは、「再任用・再雇用職員」100%、「正規職員」92.2%、「任期付職員」91.7%である。

他に教員免許 30.1%、司書教諭 25.1%など資格保有率が高い。

4) 最終学歴

全体では「大学」が 68.2%、「短期大学・高等専門学校」22.5%、「大学院」4.0%「高等学校」2.7%、「専門学校」2.2%である。雇用形態による大きな差はみられないが、「大学」以上では、「正規職員」87.5%、「再任用職員」83.3%が他を上回る。

5) 勤務する学校の別（設置）

「市町村立学校」（小中学校が主となる）70.8%「都道府県立学校」（高校が主となる）21.1%で、私立は 7.7%、国立は 0.4%に過ぎない。

「パートタイム会計年度任用職員」「フルタイム会計年度任用職員」「有償ボランティア」「外部委託・派遣等」は「市町村立学校」で 7 割以上、「再任用・再雇用職員」「正規職員」「任期付職員」は「都道府県立学校」で 5 割以上と比率が高い。また「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」は「私立学校」で 55.3%と高い。

6) 勤務する学校の種類

全体では、「小学校」51.6%、「高等学校」24.0%、「中学校」19.4%の順になる。

「パートタイム会計年度任用職員」は「小学校」が 63.7%、「中学校」も含めるとほぼ 9 割に近い。「フルタイム会計年度任用職員」は小中学校で約 7 割だが「高等学校」でも 28.6%存在する。「再任用・再雇用職員」「正規職員」「任期付職員」「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」は「高等学校」で 5 割以上、「有償ボランティア」は大半が「小学校」、「外部委託」も「小学校」が多い。

7) 勤務の状況

全体では「1 校専任」74.7%、「2 校兼務」10.8%、「3 校以上兼務」9.9%、「1 校に複数名の配置」3.6%、「その他」1.1%である。

「1 校専任」は「再任用・再雇用職員」「正規職員」「任期付職員」で 8 割以上。一方「2 校兼務」以上は「パートタイム会計年度任用職員」28.5%、「外部委託」28.0%、「有償ボランティア」23.1%で全体の平均値を上回っている。「1 校に複数名の配置」は「外部委託」12.0%、「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」10.5%が多い。

8) 勤務の日数・時間

週の勤務時間数を基に次のように分類した。「A：フルタイム（週 37 時間 45 分）以上」20.7%、「B：週 30 時間以上フルタイム未満」17.5%、「C：週 20 時間以上 30 時間未満」（20 時間は社会保険加入の要件）18.5%、「D：週 15 時間 30 分以上 20 時間未満」（15 時間 30 分は手当支給の要件）5.0%、「E：週 15 時間 30 分未満」5.4%、「F：年 960 時間以上（月 80 時間以上）」8.4%、「G：年 960 時間以下（月 80 時間未満）」8.2%、「H：週日数」7.8%、「I：月・年日数」7.2%、「他」1.3%。「正規職員」「任期付職員」は「A」が大半だが、「フルタイム会計年度任用職員」が 22.4%なのは勤務時間が短く「パートタイム」でありながら、「フルタイム」と自分で認識している人が多いためと思われる。「B」は「フルタイム会計年度任用職員」「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」「外部委託・派遣等」で一番多く、「C」は「パートタイム会計年度任用職員」で一番多い。時間数が少ない「E」「G」は「有償ボランティア」と「外部委託・派遣等」に多い。「H：週日数」は「再任用職員」「フルタイム会計年度任用職員」に多く、「I：月・年日数」は「フルタイム会計年度任用職員」に多い。

9) サービス残業・持ち帰り仕事

全体では、「よくある」33.9%、「たまにある」40.3%、「ない」25.8%である。しかし「よくある」「たまにある」の合計は、「有償ボランティア」84.6%、「パートタイム会計年度任用職員」80.6%、「外部委託」72.0%「フルタイム会計年度任用職員」71.4%で高く、他の 5～6 割を上回る。

サービス残業・持ち帰り仕事になる理由としてあがっていたのは、「仕事量に対して勤務時間が短い」90、「納得のいく仕事をするため（仕事の質を確保するため）」22 が多い。仕事内容としては、「公共図書館からの資料借入」24、「選書・発注書作成・情報収集」27、「掲示物等作成・イベント準備」27 など。残業が認められない、申請しづらいといった制度の問題の指摘も 28 あった。

(2) 労働条件

1) 雇用契約（任用）期間

全体では、「1 年」63.6%、続いて「期限なし（定年まで）」15.3%、「2 年以上」11.0%である。

「1 年」では、「再任用・再雇用職員」「フルタイム会計年度任用職員」「パートタイム会計年度任用職員」の約 8 割を占めるが、「有償ボランティア」「外部委託」でも 6 割を超える。一方「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」では 4 割に満たない。「2 年以上」の内訳では、「5 年」「3 年」が多い。

2) 雇い止めの有無

全体では、「なし」が 50.5%、「不明」が 28.2%、「あり」が 21.3%である。意外に「あり」が少ないが「不明」の比率が高く、制度が曖昧か自分の雇用条件を把握していない人が多いと思われる。「なし」は 3～4 割の「パートタイム会計年度任用職員」「フルタイム会計年度任用職員」より 5～6 割の「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」や「有償ボランティア」「外部委託」に多い。「不明」は「有償ボランティア」の 46.2%、「外部委託」、「パートタイム会計年度任用職員」「フルタイム会計年度任用職員」、「任期付職員」でも 3 割を超える。

「あり」の場合の更新回数は、「4 回」がもっとも多く、「パートタイム会計年度任用職員」「フルタイム会計年度任用職員」「任期付職員」に多い。

3) 現在の学校図書館での勤務年数

全体では、「1 年未満」22.4%、「1 年以上 3 年未満」が 31.0%、「3 年以上 5 年未満」17.8%、「5 年以上 10 年未満」19.4%、「10 年以上」9.4%である。「5 年未満」以下を合計すると 71.2%になる。

雇用形態による大きな違いは見られないが、5 年を超えるものは全体の 28.8%で、「再任用職員」（正規職員が定年後そのまま同じ職場で再任用になると思われる）58.4%、「有償ボランティア」53.9%、「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」39.4%、「正規職員」35.2%などが多く、「会計年度任用職員」や「任期付職員」は全体平均を下回り「雇い止め」が影響していると思われる。

4) 学校図書館での通算勤務年数

全体では、「5 年以上 10 年未満」32.3%、「10 年以上 20 年未満」27.2%、「1 年以上 3 年未満」「20 年以上」12.0%の順になる。「5 年以上」を合計すると 71.5%になる。1 校あたりは短くても通算すると学校図書館で長く働いていることがわかる。

10 年を超えるベテラン職員は全体では 39.2%だが、「再任用職員」81.7%、「正規職員」67.2%などは大幅に上回る。片や「パートタイム会計年度任用職員」「フルタイム会計年度任用職員」や「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」はいずれも 30%前後である。

5) 給与・報酬の金額

全体では、月給 48.7%、時給 45.4%、日給 5.9%だった。

月給については、「再任用・再雇用職員」は全員であり、「フルタイム会計年度任用職員」「任期付職員」も 85%以上が該当した。「外部委託」はほとんどいない。

平均金額は 203,614 円。必ずしも勤務時間数は同じではないが雇用形態別にみると、「正規職員」318,977 円に対し、「フルタイム会計年度任用職員」173,243 円、「パートタイム会計年度任用職員」149,151 円とその差は約 2 倍ある。「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」「任期付職員」「再任用・再雇用職員」などは 20 万円強とほぼ平均値に近い。

時給は、「外部委託・派遣等」が 100%近いのに対して「有償ボランティア」とともに「パートタイム会計年度任用職員」の比率が高く、給与形態の 61.4%を占める。平均金額 1,146 円。（ちなみに調査当時の最低賃金全国加重平均額は 1,004 円）

日給は、「自治体等直接雇用」のみ、絶対数が少ない中でほとんどが「パートタイム会計年度任用職員」だった。平均金額は 6,091 円。

6) 昇給の有無

全体として、「なし」が 57.0%、「あり」が 35.3%。「あり」が多いのは「正規職員」82.8%で、これを除いた「自治体等直接雇用」の非正規雇用職員だけでみると「なし」が 66.0%になる。また「外部委託」も「なし」が 60.0%ある。

7) ボーナス・一時金（期末・勤勉手当）の有無

全体として「あり」が 77.6%、「なし」が 22.4%。「なし」が多いのは「有償ボランティア」100%、「外部委託」96.0%「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」50.0%、「パートタイム会計年度任用職員」24.3%である。

8) 交通費（通勤手当）の有無

全体として「あり」が 95.3%、「なし」が 4.7%。「有償ボランティア」を除いてほぼ支給されている。

9) 超過勤務手当（残業代）の有無

全体として「なし」が 71.4%、「あり」が 28.6%。「再任用・再雇用職員」「正規職員」「任期付職員」「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」では「あり」が 5 割を超える。一方「パートタイム会計年度任用職員」「フルタイム会計年度任用職員」「有償ボランティア」「外部委託」では「なし」が 7 割を超

える。

10) ボーナス・交通費・超勤手当以外の有無

全体としては、「なし」が82.9%、「あり」が17.1%。支給数が多かった「地域手当」「住宅手当」「扶養手当」のうち「正規職員」「任期付職員」はすべてに支給例があったが、「パートタイム会計年度任用職員」は「地域手当」のみであった。

11) 退職金の有無

全体として、「なし」が79.4%、「あり」が20.6%。「正規職員」は98.4%とほぼ全員に近いのに対し、「任期付職員」44.4%を除けばあとはすべて3割以下である。ことに「パートタイム会計年度任用職員」0.9%、「有償ボランティア」「外部委託・派遣等」は全員が「なし」だった。

12) 賃金の満足度

全体として、「満足」10.4%。「やや満足」16.7%。「やや不満」32.5%「不満」38.4%。

「やや不満」と「不満」の合計が多いのは「有償ボランティア」100%、「外部委託」96.0%、「パートタイム会計年度任用職員」81.8%、「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」78.9%、「再任用・再雇用職員」75.0%「フルタイム会計年度任用職員」73.5%と非正規職員の大半を占める。一方「満足」「やや満足」が多いのは、「正規職員」81.3%、「任期付職員」50.0%であった。

13) 改善してほしい点（複数回答可）

全体の回答を比率の高い順にあげる。「給与の増額」70.7%、「昇給の実施」42.0%、「超過勤務手当の支給」39.2%、「退職金の支給」37.8%、「ボーナスの支給」18.7%、「交通費の全額支給」11.0%。

「給与の増額」は「正規職員」以外のすべてでほぼ7割以上になる。また「昇給の実施」「退職金の支給」も「パートタイム会計年度任用職員」「フルタイム会計年度任用職員」「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」「外部委託」の4割以上を占める。「ボーナスの支給」は「外部委託」60.0%や「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」44.7%で目立つ。「超過勤務手当の支給」が超過勤務手当のない「パートタイム会計年度任用職員」「フルタイム会計年度任用職員」「有償ボランティア」「外部委託」で多くみられるのは、実際にサービス残業が行われていることが想像される。

14) 家計の中での現在の賃金の位置づけ

全体として、「自分以外の家族の収入が主な収入源」64.2%、「主な収入源」31.4%、「主な収入源が他にある（ダブルワーク等）」4.5%。

「自分以外の家族の収入が主な収入源」が多いのは、「有償ボランティア」84.6%、「パートタイム会計年度任用職員」82.4%、「外部委託」72.0%など。

一方「主な収入源」が多いのは、「再任用・再雇用職員」83.3%、「正規職員」81.3%、「任期付職員」63.9%などだが、「フルタイム会計年度任用職員」で45.9%、「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」で31.6%あり、さらに「パートタイム会計年度任用職員」でも13.9%みられる。

15) 職場で加入している社会保険（複数回答可）

全体で多い順に、「厚生・共済年金」66.4%、「健康保険」60.0%、「雇用保険」58.3%、「介護保険」32.8%、「その他」1.5%、「なし」18.8%。

16) 取得可能な休暇（複数回答可）

有給で全体で多い順に、「年次有給休暇」96.4%、「夏季休暇」76.4%、「慶弔休暇」64.3%、「育児時間」64.3%、「産前産後休暇」34.7%、「病気休暇」34.4%、「介護休暇」26.0%、「育児休暇」23.6%、「子

の看護休暇」23.1%など。

無給で全体で多い順に、「病気休暇」36.5%、「介護休暇」34.5%、「子の看護休暇」31.5%、「育児休暇」30.9%、「育児時間」30.6%、「産前産後休暇」23.7%、「慶弔休暇」14.3%など。

17) 現在の休暇の満足度

全体として、「満足」26.4%、「やや満足」34.4%、「やや不満」26.5%、「不満」12.7%。

「正規職員」86.6%、「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」70.6%、「任期付職員」70.4%に比べ、「パートタイム会計年度任用職員」56.7%や「フルタイム会計年度任用職員」50.0%、「外部委託」50.0%は少なく、「有償ボランティア」に至ってはわずか30.0%に過ぎない。

18) 改善または追加してほしい休暇制度（複数回答可）

全体の回答を多い順にあげると。「病気休暇」31.5%、「介護休暇」31.1%、「子の看護休暇」22.4%、「育児休暇」15.8%、「夏季休暇」13.1%、「年次有給休暇」12.9%、「育児時間」11.6%、「慶弔休暇」11.3%、「産前産後休暇」10.8%、その他6.7%、なし29.6%。

また「その他」には「休暇があっても取りづらい」という意見が13件あった。

19) 改善を望む労働条件（3つまで、複数回答可）

全体を多い順にあげると「賃金制度（給与・手当）」70.1%、「勤務時間の増加」45.5%、「雇用期間の延長・雇い止めの廃止」43.4%、「複数校の兼務ではなく1校専任で働く」21.8%、「休暇制度」18.0%、「社会保険」12.1%、「その他」7.5%。

また「その他」の中で多かった意見は、正規専門職員の配置11、雇用の改善10、研修の充実6、労働環境の改善6、人員配置5、各種手当の改善5などであった。

(3) 校内の処遇・担当する業務（複数回答可）

1) 校内の処遇（複数回答可）

「名簿掲載」「校内資料配布」「職員室の机（共用も含む）」「PC配布」「朝会参加」「職員会議参加」「校内研究・研修参加」の8つの部門について質問をした。8つの回答の合計の全体平均値は50.7%であり、これを上回る場合は処遇が高く、下回ると低くなる。

雇用形態別にみると、「再任用・再雇用職員」79.2%、「正規職員」76.8%、「任期付職員」72.2%、これに「フルタイム会計年度任用職員」57.0%が上回る。これを上位グループとする。一方下回るのは「パートタイム会計年度任用職員」44.1%、「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」39.5%、「外部委託」32.5%である。これを下位グループとする。「有償ボランティア」に至ってはわずか10.6%に過ぎず、0%の項目が4つあった。個別に見て上位グループと下位グループの差が大きいのは、「朝会参加」（上位77.8%、下位19.4%）、「職員会議参加」（上位72.8%、下位19.2%）、「校内研究・研修参加」（上位62.2%、下位19.0%）、「PC配布」（上位78.1%、下位40.3%）であった。

2) 「間接的支援」に関する職務（複数回答可）

「資料選定」「選書基準作成」「図書受入」「図書廃棄・除籍」「蔵書点検」「資料の展示・別置」「利用案内等作成」「レイアウト改善」「情報機器の整備」「相互貸借」「図書館便り作成」「図書館計画作成」「図書館予算案作成」「統計の作成」「ボランティア対応」の15の部門について質問をした。全体平均値は75.2%で、高いほど行っている職務の幅が広い。

雇用形態別にみると「再任用・再雇用職員」91.1%、「任期付職員」83.9%、「正規職員」79.8%と正規及び準正規というべき職員が平均値を上回る。「フルタイム会計年度任用職員」74.3%、「外部委託」

73.9%、「パートタイム会計年度任用職員」73.0%、「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」67.9%、
が下回るが大きな差は見られず、「有償ボランティア」52.8%のみ格段に低い。「有償ボランティア」を
除き個別の業務で差が大きいのは、「図書館予算案の作成」「図書館計画の作成」「相互貸借」「選定基準
の作成」「情報機器の整備」などで、正規及び準正規職員が高く40~50%の差があった。

3)「直接的支援」に関する職務（複数回答可）

「貸出・返却」「予約サービス」「ガイダンス等実施」「レファレンス」「情報検索アドバイス」「読書活
動企画等」「読書相談・案内等」の7つの部門について質問をした。全体平均値は87.3%で、高いほど
行っている職務の幅が広い。

雇用形態別にみると「再任用・再雇用職員」97.6%、「正規職員」95.4%「任期付職員」92.4%が9割
台なのに対し、「外部委託」86.8%、「パートタイム会計年度任用職員」85.8%、「会計年度任用職員以外
の非正規雇用職員」85.3%、「フルタイム会計年度任用職員」84.4%が8割台で平均値を下回る。「有償
ボランティア」は76.7%であった。個別の業務は前項に比べ差が小さく10%台の差が多いが、「読書活
動企画等」「予約サービス」「ガイダンス等実施」では30%台になる。

4)「教育指導への支援」に関する職務（複数回答可）

「委員会活動支援」「学校行事に関する資料展示・提供」「図書の時間への関与」「教員との打ち合わ
せ」「授業での読み聞かせ・ブックトーク」「授業資料の準備・ブックリスト作成」「授業での図書館資料
活用ガイダンス」「調べ学習等での児童生徒への支援」「授業のためのパスファインダー作成」「図書館活
用に関する教員への情報提供」の10の部門について質問をした。全体平均値は65.0%で、高いほど行
っている職務の幅が広い。

雇用形態別にみると、「再任用・再雇用職員」78.3%、「正規職員」71.7%「任期付職員」68.6%に対
し、「外部委託」66.8%、「フルタイム会計年度任用職員」65.9%、「パートタイム会計年度任用職員」
64.0%とやや少ないが、「有償ボランティア」47.7%、「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」52.9%
がかなり少ないのが目立つ。

個別の業務は差が大きく30%を割るものがなく、多くが50~60%台である。しかも今までと違って
正規及び準正規職員が高いと言えないものもある。これはこの項目の学校間での実施の差が大きいので
はないかと推測される。

(4) 研修

1) 新採用向けの研修

全体で「ある（職務としての研修）」53.6%、「ある（自主的参加）」8.2%、「ない」38.2%だった。

雇用形態別にみると（職務としての研修）は「正規職員」72.7%、「外部委託」68.0%「任期付職員」
63.9%が全体値を上回る。「パートタイム会計年度任用職員」51.5%、「フルタイム会計年度任用職員」
45.9%、「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」39.5%と「自治体等直接雇用」は全体平均値以下、
さらに「再任用・再雇用職員」は33.3%、「有償ボランティア」は23.1%である。

そのためか（自主的参加）は、「再任用・再雇用職員」16.7%、「有償ボランティア」15.4%、「フルタ
イム会計年度任用職員」14.3%と（職務としての研修）がない職員層が高い。

一方「ない」と答えたものは、「有償ボランティア」61.5%、「会計年度任用職員以外の非正規雇用職
員」55.3%、「再任用職員」50.0%で高く、「パートタイム会計年度任用職員」「フルタイム会計年度任用
職員」でも4割程度あった。

2) 過去1年間の研修参加の有無

全体として、「参加した」82.6%、「参加しなかった」17.4%。雇用形態別にみると「有償ボランティア」38.5%、「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」60.5%の2つを除けば、「外部委託」も含めほぼ80%以上とあまり差はない。

「参加した」の回答では、回数は1回 13.9%、2回 18.8%、3回 18.6%と3回までで51.3%、5回までで72.8%を占める。

3) 過去1年間の自主参加の研修の有無

全体として、「あった」61.1%、「なかった」38.9%。雇用形態別にみると「正規職員」65.6%、「フルタイム会計年度任用職員」63.6%が多いが、「有償ボランティア」でも61.5%と大きな違いがない。少ないのは「外部委託」48.0%である。

「あった」の回答では、回数は1回 25.4%、2回 26.9%、3回 17.4%と3回までで69.7%、5回までで76.5%になる。

4) 研修参加以外に行った自主的な学習・活動の有無

全体として、「ある」80.7%、「ない」19.3%。雇用形態別にみると「有償ボランティア」92.3%、「外部委託」88.0%、「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」84.2%と比較的研修機会に恵まれない層が高い。低いのは「任期付職員」69.4%、「パートタイム会計年度任用職員」72.4%などであった。

具体的内容は、インターネット・SNSでの情報活用 78.8%、図書館関係誌や図書の購読 65.2%、勉強会等への参加 53.4%、図書館関係団体での活動 27.5%、その他 8.2%である。

5) 研修受講の必要性

全体として、「必要である」96.0%、「必要でない」4.0%。雇用形態別にみると「外部委託」の100.0%をはじめ、すべてが90%を越える。

必要とする研修内容としては、ICT・情報 167、情報交換・交流 143、授業支援 128、選書・資料情報 117、その他実務 91、著作権 88、読み聞かせ・ブックトーク等 60が多かった。

6) 研修受講時の問題点（複数回答可）

「時間がない」60.4%、「費用がかかる」52.9%。「その他」18.4%。

「その他」に記載のあった回答には、「研修が認められない」42、「時間の調整がつけられない」34、「場所が遠い」20、「受けたい研修がない、研修の内容がよくない」18などがあつた。

(5) その他

1) 昇進・昇格の機会の有無

「あり」15.6%、「なし」74.4%、「不明」10.1%。「あり」は「正規職員」74.4%以外の「自治体等直接雇用」のすべてが10%以下で、ことに「再任用・再雇用職員」「有償ボランティア」では0%だった。「外部委託」は20.0%あつた。

2) 非正規職員が正規職員に転換する機会の有無

「あり」7.2%、「なし」82.8%、「不明」10.1%。「あり」は「正規職員」「再任用・再雇用職員」以外では、「任期付職員」25.0%、「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」15.8%などで比較的高く、「外部委託」、「パートタイム会計年度任用職員」「フルタイム会計年度任用職員」は4%以下、「有償ボランティア」では0%だった。

3) 学校図書館職員として働きたいか

「はい」95.0%、「いいえ」5.0%。「はい」は「有償ボランティア」84.6%を除けばすべてが90%以上で、大半の人が働きたいと思っている。

将来働きたい立場（複数回答可）は、正規では「自治体・国立学校・私立学校の正規職員」79.8%、「企業等の正社員」13.7%、非正規では「自治体の会計年度任用職員」36.5%、「企業等の契約社員」5.9%、「企業等のパート・アルバイト」4.7%、「有償ボランティア」4.5%だった。

4) 学校図書館職員として長く働くことでどうなると思うか

①仕事の幅が広がる

「そう思う」54.4%、「やや思う」28.8%、「やや思わない」11.3%、「思わない」5.5%。

「やや思わない」「思わない」の合計は16.8%だが、「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」31.6%、「外部委託」24.0%、「有償ボランティア」23.1%などで上回っている。

②能力が高まる

「そう思う」63.6%、「やや思う」30.5%、「やや思わない」3.7%、「思わない」2.2%。

「やや思わない」「思わない」の合計は5.9%だが、「会計年度任用職員以外の非正規雇用職員」18.4%、「再任用・再雇用職員」16.7%、「有償ボランティア」15.4%などで上回っている

5) 学校図書館で働く中で思うこと（自由記述）（以下省略）

※ 本報告書の内容を引用する場合、必ず出典を明記してください。引用後は成果物を本会に1部送付をお願いします。

令和6年度石川県図書館大会 参加報告

高橋恵美子

2024年12月13日（金）、石川県立図書館だんだん広場で、標記の大会が開催された。当部会の幹事・笠川氏がパネルディスカッションのパネリストを頼まれたこと、また大会のテーマが「図書館とマンガ」であったこともあり、『学校図書館とマンガ』（JLA Booklet 2022）を販売するために、高橋と甫俣部会長、神奈川県立高校の司書1名が参加した。

大会は1日日程で、10時半開会、講談社ヤングマガジン編集者・上田航平氏による講演「『税金で買った本』について」、午後はパネルディスカッション「図書館とマンガ」とマンガを題材としたビブリオバトルが行われた。

午前中の講演は、『税金で買った本』について製作過程を追いながらの説明となった。この作品のキャッチフレーズは、「ヤンキーくんによる図書館お仕事漫画」「税金で買った本だぞ返せよ」とのこと。原作者のずいの氏は、実際に司書として公共図書館の勤務経験があり、だからこそ書ける「リアル」な部分が見どころのことだった。図書館員の方々に取材したが、高校の図書館や大学図書館の方にも取材したという。このマンガの反響は、実在する書籍が登場する面白さ、マンガを読んで実際の書籍を読みたい、など。SNSやファンレター等での反響もあり、想像以上に学校司書からの声も多かった。さいごに、では、マンガの登場人物の声「図書館って弱い人間のためにあると思って

んですよ」が紹介され、「自由で平等に、弱い立場の方々に対して開かれているもの、勇気づけるものであると考えています」と結ばれた。

午後のパネルディスカッションは、コーディネーターは石川県立図書館の河村氏で、パネリストは4人、午前の講演者の上田氏、近畿大学中央図書館学生センターの岡氏、神奈川県立高校の笠川氏、白河市立図書館の鹿内氏だった。鹿内氏は昨年の当部会の夏季研究集会で報告をお願いした方である。笠川氏の報告では、茅ヶ崎高校図書館でどんなふうにマンガを扱っているかが紹介された。ディスカッション部分での鹿内氏の発言、「図書館にマンガを入れるうえで一番障壁になっているのは、図書館職員である」との発言が印象に残る。

マンガを題材としたビブリオバトルは、本の販売について石川県立図書館の方と連絡を取っているうちに、「ビブリオバトルやりませんか」と声がかかり、高橋も参加した。ビブリオバトルの参加者は4人、高橋は『大奥』（よしながふみ 白泉社）で行った。『大奥』そのものの紹介というより、『大奥』がアメリカでどんなに評価されているかという話を中心になってしまい、チャンプ本にはなれなかった。

以上

この文章は、『子どもと読書』2025年1・2月号に掲載されました。部会報用に書式を変えています
が、子どもと読書編集委員会の許諾を得ています。

新たな描き手が伝えていく平和への思い

笠川昭治（神奈川県立茅ヶ崎高校図書館・学校司書）

学校図書館で戦争をテーマにしたマンガというと、まず思い浮かぶのが中沢啓治の『はだしのゲン』（汐文社、中央公論新社ほか、1973-87年）や水木しげるの『総員玉砕せよ!』（講談社、1973年）だろう。どちらも長く読み継がれてきた作品で、作者の戦争体験が元になっている。しかし、戦後80年を迎えようとしている現在、戦争体験を伝えてくれる人が少なくなっている。そんな中、戦後生まれのマンガ家が、戦争をテーマとした意欲的な作品を発表している。

こうの史代の『この世界の片隅に』（双葉社、2008-09年）は、広島・呉が舞台だ。絵を描くのが大好きでおっとりとしたすずは、18歳で見知らぬ土地へ嫁ぐ。新しい家族や近所の人たちとの何気ない普通の暮らしがたんと、ときには楽しげに描かれるが、一方で物資が不足し、配給が滞るなど、戦時下であることが実感されてくる。年が明け昭和20年になると、次第に暗雲が立ちこめてくる。軍港のある呉は、たびたび空襲を受けるようになり、ついにととても大きな悲劇がすずと家族を襲う。絵のタッチはやわらかく、子どもたちにはとっつきやすい。ほのぼのとした中にも、戦争の悲惨さ・無慈悲さに負けずに生きぬく人々の強さを感じられるマンガだ。

なお、この作品は2016年にアニメ映画が制作され、公開された。当初それほど注目されていなかったが、SNSなどでの反響が大きく、1,133日に渡る日本アニメ映画史上最長のロングラン上映となった。アニメ作品は子どもたちにとってなじみ深く、興味をもちやすいこともあり、ぜひ図書と一緒に紹介したい。

今日マチ子の『COCOON（コクーン）』（秋田書店、2010 年）は、沖縄のひめゆり学徒隊に着想を得て、思春期の少女たちの視点から戦争を描いた作品だ。島いちばんの女学校に通うサンは、親友のマユやクラスメイトとともに学徒隊として戦地に赴くが、次第に戦況は悪化し、ひとり、またひとりと仲間を喪っていく。ある日サンは日本兵に襲われ、マユは怒りのままにその男を殺してしまう。やがて追い詰められた女学生たちは次々に自決をしていくが、自分にはその資格がないとサンとマユは輪から離れ、生きるために走り出すが……。シンプルな線で描かれた女の子たちはかわいらしく親しみやすいが、それ故に死んでゆく彼女たちの描写は、子どもによっては読むのに少し抵抗感があるかもしれない。

武田一義の『ペリリュウ 楽園のゲルニカ』（白泉社、2016-2021 年）は、太平洋戦争時の南太平洋パラオ諸島南部のペリリュウ島での日米の激戦を描いたマンガだ。私は生徒のリクエストで初めてこのマンガを知った。SNS で話題になり、読みたくなったとのことだった。

主人公・田丸は、漫画家志望。楽園のような島を見て、将来この島での経験を元に冒険マンガを描きたいと夢想する。しかし、現地で仲良くなった山下は言う。「この島から生きて帰れると思っているのか」と。そして俺は「勇敢に戦って立派に死にたい」とも。しかし彼は米軍機の襲来に驚き、スコールで濡れた石で足を滑らせ頭を強打し、死んでしまう。無駄死にだ。その後田丸は小隊長に呼ばれ、「功績係」を命じられる。仕事は、隊員の「最期の雄姿」を日本の家族に伝えること。田丸は山下の「壮絶な最期」を書きながらも、嘘をつくことに罪悪感を覚え、不安になる。

このマンガにヒーローはいない。米軍の上陸を阻止しようとした日本軍はちりぢりとなり、なんとか生き延びた田丸たちは、米軍掃討部隊に怯えながら、ただ生きるために水や食糧を探し続ける。そして、彼らは次第に戦う目的を忘れていく。何のために命を賭けて戦うのか、その答えはどこにもない。死体や凄惨な場面もたくさん描かれているが、三頭身で描かれたキャラクターは親しみやすく、子どもでも読み進めていけるマンガだろう。

なお、このマンガは現在本編には入らなかったエピソードをまとめた外伝が3冊まで出ている。また、連載終了時にアニメ化のニュースが伝えられたが、どのような形で公開されるのかはまだ明らかにされていない。続報が待たれる。

小梅けいとの『戦争は女の顔をしていない』（KADOKAWA、2020-現在も継続中）は、2015 年にノーベル文学賞を受賞したベラルーシの女性作家スヴェトラナ・アレクシエーヴィチが、第二次世界大戦に従軍したソ連の 500 人以上の女性の証言をまとめたルポルタージュをマンガ化した作品だ。自ら志願して戦場に身を投じた女性たちは、男と同様に敵を殺し、仲間を助け、ときには肉親との愛に引き裂かれ、傷つきながらも戦う。そして戦後、彼女たちが極限状態で体験した戦争は、彼女たちをさいなみ続ける。ソ連は、この戦争の戦勝国だ。でも、戦争は勝ちさえすればそれでいいのか。敗戦国同様、戦争に勝ったソ連の人々にも、戦争は大きな傷跡を残していた。なお、このマンガは子どもたちが読むには少し難しいかもしれないが、エピソードを1つずつでも読んでいてもらいたい。

以上4作品を紹介した。生徒は知っているマンガはよく読むが、未知のマンガにはなかなか手が出ないため、実のところ手渡すところまでいっていないが、戦争について授業で学んだり、修学旅行等の学習資料として読んでほしいので、通常のマンガのように別置せず、一般図書と一緒に分類し、配架している。

次期役員候補者公募の結果報告

2025 年 2 月 1 日

部会員の皆様へ

日本図書館協会学校図書館部会役員候補者公募の結果のお知らせ

部会長 甫仮久美子

学校図書館部会規程第 8 条および学校図書館部会役員選出要綱にもとづき、第 40 期部会役員の任期満了にともなう次期役員の候補者公募を行ったところ、下記のとおり応募がありましたのでお知らせいたします。なお、各役職とも応募は定数と同数か定数以下でしたので、同要綱により、期日までにご応募頂いた方につきましては、次期役員に確定いたしました。

部会員の皆様には候補者の公募にご協力いただきありがとうございました。次期役員の皆様には、今後の部会運営をよろしくお願いいたします。

記

1. **部会長**：甫仮久美子（神奈川県立平塚江南高等学校図書館）

2. **副部会長**：中村崇（東京都立井草高等学校図書館）

3. **幹事（五十音順）**：

石黒順子（埼玉県立越ヶ谷高等学校図書館）

笠川昭治（神奈川県立茅ヶ崎高等学校図書館）

佐藤千春（岡山大学附属図書館）

高橋恵美子（JLA 部会推薦理事・元神奈川県立高校司書）

仲 明彦（京都府立洛北高等学校図書館）

長谷川優子（元埼玉県立久喜図書館）

堀岡秀清（東京都立白鷗高等学校附属中学校図書館）

松本美智子（神奈川県高等学校教育会館 県民図書室）

山本敬子（小林聖心女子学院中学・高等学校図書館）

4. **監査**：中村登世子（元神奈川県立高校司書）

以上

次期役員候補者追加公募のお知らせ

2025 年 2 月 1 日

部会員の皆様へ

日本図書館協会学校図書館部会役員補充選出のお知らせ

部会長 甫仮久美子

部会報 77 号（2024 年 12 月 1 日発行）において、第 39 期部会役員の任期満了にともなう次期役員の候補者公募を行ったところ、下記のとおり応募が定数に満たない役職がありました。つきまして

は、学校図書館部会役員選出要綱 3-3 及び 5-2 に基づき、定数に満たない役職・人数について、あらためて公募（補充選出受付）いたします。

記

1. 役職と補充選出数

役職と補充選出数：(1) 幹事 11 名以内

2. 応募資格

日本図書館協会の会員で、かつ学校図書館部会に所属されている方（施設会員に所属される方を含みます）

3. 応募方法

以下の記載事項を明記して、下記送付先に送付して下さい。

自薦・他薦（推薦）を問いませんが、他薦の場合は、候補者本人の了解を得て応募して下さい。他薦の場合の推薦者は、日本図書館協会の会員で学校図書館部会に所属されている方（施設会員に所属される方を含みます）に限ります。

1) 記載事項

- (1) 応募する役職
- (2) 候補者氏名
- (3) 勤務先・所属等名称（特にない方は「特になし」とお書き下さい）
- (4) 郵便番号・郵送連絡先
- (5) 電話番号（自宅・携帯・勤務先等いずれでも構いません。勤務先の場合、連絡可能な時間や内線番号あるいは呼び出しの部署なども適宜記して下さい）
- (6) 電子メールアドレス（お使いでない方は「なし」とお書き下さい）
- (7) 他薦の場合は、推薦者のお名前と連絡先および候補者本人の了解を得ている旨の記述

2) 送付先（応募連絡先）（電子メール） gakutobukai@jla.or.jp 宛

4. 応募締切 2025 年 5 月 21 日（水） 必着

5. 応募いただいた個人情報および役員選出に関する情報の扱いについて

応募の際にご提供いただいた個人情報は、役員選出手続のために使用します。また、役員により、部会運営のための諸事務に使用される場合があります。これら個人情報のうち、(1) 応募する役職 (2) 候補者氏名 (3) 勤務先・所属等 は、一般に公表されます。

応募・辞退の状況等役員選出に関する情報はすべて公開しますが、個別に受けたお問い合わせの内容については、当事者の合意がない限り公開しません。

6. 補充選出の手順

定期部会総会（6 月 7 日開催予定）において協議・選出します。

7. 部会役員選出についてのお問い合わせ窓口

（電子メール） gakutobukai@jla.or.jp 宛

以上

部会からのお知らせ

NEW ◎この部会報に、2025 年度第 53 回夏季研究集会開催要項を同封しています

今年度も、会場参加と Web 参加の併用方式で開催予定です。詳しくは同封の要項をご覧ください。
もし要項が同封されていない場合は、恐れ入りますが、部会連絡先までお知らせ下さい。皆様のご参加をお待ちしております。

なお、今回は、参加費の支払いはゆうちょ銀行口座への口座振込を基本としますので、郵便振替の用紙は同封していません（要項のみ同封しています）。

NEW ◎夏季研究集会報告集ができました

2024 年度第 52 回夏季研究集会の報告集ができました。参加者と報告集購入のお申込みを頂いた方には既に発送いたしました。まだ届いていない場合は、部会アドレス宛にご連絡下さい。報告集の通販も承ります。送料込で 1 部 1000 円です。通販ご希望の方は、部会アドレス宛にお問い合わせ下さい。

◎ 今後の部会報発行予定

《情報・原稿募集…各地の情報・実践記録・研究会集会等イベント開催情報 等々お知らせ下さい》

次号 79 号は 2025 年 7 月頃、80 号は 2025 年 11～12 月頃発行の予定です。皆様からの情報や原稿も募集しております。図書館関係の研究会・集会等の開催情報は、日時やテーマ等要点をまとめて掲載します。〆切は発行予定時期の約 1 ヶ月前が目安になります。詳しくは部会までお問い合わせ下さい。

◎ 学図部会メーリングリストへのご参加のお誘い

部会員相互の連絡や、皆様からの意見を部会運営に生かすために、メーリングリストを開設しています。参加ご希望の方は、部会メールアドレス gakutobukai@jla.or.jp 宛にご連絡下さい。参加にあたっては、(1) 氏名（本名）(2) 日本図書館協会の会員番号（図書館雑誌の宛名ラベルに記載されています）(3) 所属（ない方は不要）(4) メールアドレス をお知らせ下さい。※メーリングリストへの参加は部会員に限らせていただいております。協会を退会された方や部会を移動された方など、部会員でなくなった場合には、ご連絡下さい。部会員でないことが確認された場合、配信を終了させていただきます。

◎ 異動・変更等について

人事異動、転居、改姓等された方は協会事務局へご一報下さい。ただし、メーリングリストに登録したメールアドレスの変更は、部会アドレス宛にお知らせ下さい。メーリングリスト参加者が協会を退会や所属部会を変更された場合、協会事務局に加えて、部会にもお知らせ下さい。

◎ 幹事会はどなたでもご参加いただけます／皆様からのご意見・ご提案をお待ちしています

学校図書館部会は役員が幹事会を開いて様々なことを話し合い、運営しています。幹事会には、部会員であればどなたでもご参加頂けます。開催日時・場所等は部会連絡先にお問い合わせ下さい。また、遠方の会員の方など会議への直接の参加が難しい方は web 参加も可能です。ご意見・ご要望などをお寄せ下さい。役員一同、部会員の意見を反映した部会運営に努めたいと思っています。よろしくお願いいたします。